

# みあさづくり

## 4年ぶりの地区文化祭



黒岩卓夫先生講演会の様子

この秋一番の最低気温を記録した10月22日(日)に、美麻公民館と美麻総合福祉センター梨嶺を会場に、令和5年度美麻地区文化祭を開催しました。4年ぶりにステージ発表も行われ、200人を超える皆様から会場いただきました。

午前の部では、源流美麻太鼓の演奏、美麻小中学校7・8・9年生による学習発表、山村留学生による太鼓の演奏が行われました。午後の部では、高地出身で地域医療のパイオニアでもある黒岩卓夫(くろいわたくお)先生と妻の黒岩秩子(くろいわちづこ)

さんによる、満州や学生時代の苦労話、お二人の馴れ初め、その後の地域医療への挑戦での困難を乗り越えた経験など、生徒への質問も交えた特別講演会が行われました。講演会の後半では7～9年生と地域の方が9グループに分かれて対話の時間が持たれ、有意義な交流と学びの時間を作ることができました。

梨嶺の展示会場では、小中学生やふるさと美麻会4名方など、地域の15団体による作品やパネル展示があり、大勢の方に鑑賞していただきました。(美麻公民館)

QRコードを読んでパソコンやスマホでもご覧ください。

ホームページ  
美麻Wiki



facebook



2023

98

## コミュニティ・スクールのお話

## 市民科成果発表復活！



4年ぶりとなる地区文化祭で7～9年生の美麻市民科の成果発表が復活しました！今年度、これまでのテーマから変更し動物の加工や獣害について学んできた9年生。落ち着いて堂々と

話す姿には、さすがの貫禄。これからは、受験も迫り忙しい時期を迎えますが、「今後について」を語った9年生に乞うご期待！

文責 9年担任 赤坂亜由

## 協力したら楽しい、お米の収穫 ♪



5年生は、10月13日に青空の下、たくさんのトンボに囲まれ北沢孝一さんに指導をしていただきもち米の収穫を行いました。収穫したお米は、お世話になっている人を選んでご馳走したいと考えています。

## 「子供たちの感想から」

☆ 今日稲刈りがありました。かまを使って稲をたくさん刈れました。北沢さんが刈り方を教えてくれたのでうまくできました。稲刈りが終わったところにヘビがけがをしていたので、とてもビックリしました。

☆ 田植えからやってきた稲がしっかり育っていてよかったです。疲れたけど楽しかったです。

☆ 稲刈りをみんなでやるとちょっと楽しい、それはみんなで協力できるから。

☆ かまをもって稲を刈るときにザクッと音がして気持ちよかったです。手が小さくてあまり稲を持つことはできなかったけど、北沢さんは何束も持っていてすごかったです。手渡しで束を渡していくときに、泥に足がはまってしまって大変でした。

文責5年担任 志水宏靖

# 梨の木祭 みんなの笑顔で楽しく開催

今年の梨の木祭は、最高学年として先頭に立ち全校をリードして企画・運営に奮闘しました。テーマを「Smiling～笑う門には福来る～」と決め、全校が笑顔でこの梨の木祭に取り組めるようにと、夏休み前からいろいろと構想を練りあってきました。「こんなことできないかな?」「そこはこうしよう。」と積極的に意見交換をして少しずつ形にしていく生徒の姿がとても頼もしかったです。地域の皆様の協力を得て当日は大成功に終わり、生徒たちはまた一つ大きく成長したと感じています。

文責9年担任 高橋文男

【生徒の感想から】

開閉会式の時、周りを見て全体を仕切るのが大変でした。二日間とも、朝7時に登校して最

後まで準備をしてやりきることができました。おかげで良い梨の木祭になりました。一番心に残ったのはバルーンドロップが本番で成功したことです。



## ～全力でやり切った梨の木祭～

みんなの力を1つに合わせて頑張ることが出来た2日間でした。なわとびギネス・市民科の発表・音楽会。どの発表・出番も、練習の成果が発揮されて今までで一番のパフォーマンスだったと思います。

また、教室展示やスライドづくりもクラス皆の力で作り上げることが出来ました。これらの経験は大切な宝物です。これからの生活にも活かして欲しいと思います。

文責 6年担任 藤巻智哉



## ～初めての梨の木祭 力をひとつに～

小学生になって初めての梨の木祭が9月29日、30日に行われました。夏休み明けから準備をしてきたことを存分に発揮することができて充実の2日間でした。

【子供たちの日記から】

- ・今日は梨の木祭でなわとびをしました。65回できてうれしかったです。
- ・今日音楽会がありました。歌とティンパニーとけん盤ハーモニカをやりました。音が胸に響いて気持ちよかったです。

文責 1年担任 太田美香



## 美麻地区敬老会を開催

4年ぶりの美麻地区敬老会を9月27日（水）にぼかぼかランド美麻で開催しました。当日は、対象者（75歳以上）176人のうち、34人から参加いただき、笑顔の再会となりました。

今年の敬老記念品は、市内のお菓子詰め合わせで、美麻小中学校1～6年生によるメッセージイラストとともに贈られました。賀寿の記念品は、美麻の木材を使用した置時計で、4年生が描いた民話の絵がレーザー彫刻されています。また、美麻地区出身で地域医療の先駆者として知られる、黒岩卓夫（くろいわたくお）先生と妻の黒岩秩子（くろいわちづこ）さんの特別講演『生きる、老いる、死ぬを語ろう』を開催しました。

<参加者の感想>

◇夫婦で参加したが、食べるものが沢山あり家に帰っても食べきれなかった。

新行 酒井周一郎、英子

◇久しぶりに美麻地域内の方が集まり、楽しく話ができてうれしかった。大塩 藤井重子

美麻地区敬老会実行委員会



## リビルディング・ワークショップを開催

空き家の活用を目的に、美し村開拓プロジェクトとして令和2年より取り組みを始めた元の関地区の空き家の再生事業について、今年度は長野県の地域発元気づくり支援金の助成を得て（申請主体一般社団法人地域づくり美麻）実施することとなり、10月9日にリビルディング・ワークショップを開催しました。

当日は、地域の方、移住希望者など約20人の参加があり、不用品の片付けを行ない、解体作業に向けた準備作業を行ないました。

<参加者の感想>

◇新聞の記事を見て参加をしました。古民家の設計や改装を行なっていて興味がありました。

大勢の方が気軽に参加できるイベントになれば良いと感じました。

◇大町へ移住を希望していて、古民家の勉強

のために参加しました。昔の暮らし道具などが沢山あり、説明を聞きながら楽しく作業ができました。

◇古民家への移住への憧れから参加をしました。



## 先進地視察報告「地域材の有効活用を考える」

森林面積が90%を超える美麻地区に有り余る地域資源「木」の活用と循環について学ぶため、木曾町と白馬村に先進地視察研修を行ないました。

### ○ 10/23木曾地域視察



地域材を豊富に使用して新築された木曾町役場新庁舎

私は木曾山林高校を卒業して今は木材運搬の仕事で近所の木質バイオマス発電所に木材を搬入等もしています。今回、木曾へ視察に行くと知り是非行きたいと思い参加しました。

町域の90%以上を森林が占め、桧（ひのき）が有名な木曾町ですが、唐松も全体の30%もあると知りました。木曾町は林業を主体とした地域循環型推進事業をしており、令和3年に新築した庁舎も地元材を使われ、心地良い空間が広がっていました。木質バイオマスの普及には課題もありますが大町にはチップ工場、運搬業者、搬出業者があり環境は揃っています。これを有効活用できれば木曾に負けない資源循環ができるのではと思いました。企画していただきありがとうございました。（新行 松下太一）



役場の冷暖房をすする木質バイオマスボイラー（冷暖房）は町内で作られる木質チップを燃料として運転される。

木曾のおもちゃ美術館は廃校になった校舎と体育館を再利用した雰囲気はとても温かく地域の活力を感じました。地域色豊かな木のおもちゃの展示はユニークなものばかりで、幼少期から木のおもちゃに触れることが、自然と地域への愛情を育むにはとても良い体験になると思います。また、雨の日でも楽しめるのは、市民の憩いの場としてもありがたい

施設だと思いました。木工に携わる立場としては、おもちゃをメインに事業を営むのは難しいかもしれませんが、縦横の繋がりの中で少しずつ地域材を活用していくヒントになる視察になりました。（工房ぐるり 相澤和寿）



施設内には幼児が手に取って遊べる木のおもちゃの体験ブースが数多く設けられていました。写真(右)は、木のリンゴのもぎ取り体験ができるおもちゃ。



### ○ 11/7白馬地域視察

白馬村にあるイルボスコでは、気密・断熱を徹底した上で自然エネルギーを効率よく使っていました。背景には次世代に自然を残したいという想いがあり、緻密（ちみつ）なエネルギー計算に基づきながらも楽しみながら創意工夫している様子が伝わってきました。

身近な自然エネルギーの活用で灯油使用による外国への資金流出を防ぎ、生まれた余剰資金を更なる自然エネルギーシステム構築に充てられるという説明もあり、次世代に私たちが残したいものは何か考えさせられました。自分の暮らしへのヒントも多く、できることから少しずつ取り入れていけたらと思います。貴重な機会をありがとうございました。（青具 森健介、桂）



オーナーの宗川さんから、白馬の大雪山の減少などを例に、地球温暖化防止の必要性など、住民レベルでできる取り組みとして、地域資源の活用についてのお話をいただきました。

## 美麻小中学校PTAが生まれかわります！

もうすぐ開校50年を迎える美麻小中学校には、PTA賛助会員という制度があり、児童生徒のいないご家庭からも会費のご協力をいただくことや、支援活動等を通じて学校に関わっていただいていることに感謝申し上げます。



地域の方々みんなに守られての半世紀にわたる誇らしい歴史を刻んできました。一方で、長い年月の間には、世の中も様々に変化してきました。

少子高齢化が進む日本において、世帯数、児童生徒数の減少は全国的なもので、抗(あらが)えないとも言えますが、それでもこの本校では山村留学や特認校制度などの工夫をこらし、学校の存続に努力してきた経緯があります。PTAの先輩方も、年々、世帯数が減少する中、大変な苦労をされてこられたと思います。私たち現会員もその伝統と思いを受け継ぎながら活動しています。

しかし、美麻地区内の家庭数が40世帯を切りそうな現状下では、少ない家庭数から選出される役員負担は年々重くなるばかりで、早急な見直しが必要となっています。

50年前に制定されたPTAの規約は現在も活動の指標となっていますが、本校には素晴らしい特徴がいくつもあります。中でも、親たちの話し合いの場は、旧来の資料の読み合わせをするような「形骸化(※注)した会議」とは異なり、「わからない事はわからないと言える、笑顔の絶えない会議」です。この会議の存在こそが時代を捉え、切るもの

は切り、大切なものはより大切にし、次の50年に向けて大きく舵を切る原動力になると思っています。

ここ数年、PTA役員者の活動内容を精査する中では、近隣地域や諸団体との「お付き合い」にかかる労力が大きな負担となっていることが明らかになりました。そこで、対外的な活動に注がれている分のエネルギーを学校や美麻地区内での活動に向けられないかという思いが強くなってきました。

同時に「大変」とか「負担」から逃げ出すのではなく、子ども達とその親たちが楽しく、主体的、意欲的に活動でき、山村留学制度や特認校制度を活かした組織運営に改めて行こうという意見が出される中、この度、「PTAのあり方検討委員会」が立ち上がりました。この会は現会員を中心に、地域の方や先生方にも意見をいただきながら、ダイナミックに、そしてポジティブに、これからのPTAのあり方を議論する委員会です。

少し広く考えれば、例えば、自治組織のあり方、神社や行事の維持など地域のあちこちに変化を必要としている事柄があり、PTAの活動も同様であると言えます。

子育て世代がパワフルに活動することは、地域全体を考える上でもプラスの要素はありません。地域に開かれた学校として、これまで以上に、地域の皆さんのアドバイスや応援が必要となってきます。

これからの具体的な動きは、その都度ご報告させていただきますので、ぜひ、PTAの生まれかわりにご理解とご協力をお願いします。

○文責

美麻小中学校 PTAのあり方検討委員会

青木邦子 赤坂英美 大島健一 木下旨保  
小林敏文(スクールパートナーズ) 田澤まいか 田中玲子 早川安希子 八木真紀子  
山口直行(副校長)

注)形骸(けいがい)化: 内容や意義を失って、形だけが残った状態

## 地域づくり委員会が市長に意見書提出



美麻地域づくり委員会では、昨年6月から地域課題を市政に反映させるための協議を進めてきました。このたび10月10日（火）に、

細井忠副会長、傘木則興委員と私が牛越徹大町市長へ意見書の提出をして参りました。

意見書には、地域の発展や課題解決に向け4項目をあげさせていただきました。

牛越市長からは、「優先順位もあり地域の皆様とも相談させていただきながら進めていきたい。」との話がありました。委員会では引続き、皆様の声を市政へ届けながら地域発展のための活動を進めて参りますのでご協力をお願いします。

大町市美麻地域づくり委員会 会長 小林敏文

### 意見書の要旨と回答

1 移住・定住、地域間交流の促進に繋げる地域施策として、行政が主体となった、空き家のリフォーム整備の充実や新たな取組、市民農園の利用促進を求めた。

【回答】移住相談で、美麻に住みたい相談が多いと聞く。更なる協力や知恵をお貸しいただきたい。

2 道の駅関連施設の産業振興促進として、美遊前外トイレの全面改修も視野に入れた、道の駅一帯整備の実施を求めた。

【回答】トイレの整備だけでなく、利便性が図られ魅力的な施設になるよう地域の皆さんの知恵をお借りし、方向性を決めていきたいと考えている。

3 高度情報化社会に対応するケーブルテレビ網の早期整備と着実な実施を求めた。

【回答】令和7年度には事業着手が出来るよう進めている。

4 美麻地区小さな拠点形成事業の運営組織への財政支援を要望した。

【回答】小さな拠点づくりについては、初期投資は国の交付金が充てられた。地域づくり会議との連携により収益に繋がる部分は、一般社団法人地域づくり美麻に移行するご配慮もいただいております。地域で周りから盛り上げる仕組作りをお願いいたします。

※地域づくり委員会は、市町村合併後の旧村地域ごとの意見を市政に反映させるため、市長が設置した諮問機関です。

## 連載 美麻の口碑伝説 十九

大町市美麻地域づくり委員会  
～語り継ぐ郷土の心～

### 『娘に恋をした蛇』 (今回は、青貝大藤の話)

むかし、大藤に「夫婦池」と呼ばれる二つの池があった。峰の上には大蛇が住んでいた。湧き水を飲みたいと下の池の近くまで来たとき、美しい娘が水を飲んでみた。大蛇は、白い指で水を掬(すく)い上げ飲む姿に一目ぼれした。

ある夜、娘の部屋の戸をたたく音がする。娘は少し戸を開けてみると、月明かりに見えたのは背が高く色白の顔で、青色の着流しに角帯を締めた若者だった。それから、若者は毎夜通つてくるようになった。娘が若者と日々過ごすうちに、娘の顔はだんだん青ざめ、体も弱つてきた。

家の人たちは案じたが、いっこうに良くならない。婆様が若者を不審に思い娘に言った。「そいつが誰なのかみつけないけりや。男のたもとに糸のついた針を刺しておくだぞ。」娘はその夜、若者のたもとに針を刺し長い糸を縫い付けた。

翌朝、その糸をたどっていくと、峰の池の中にながら池の中から声がした。「おれの体は針に刺されて痛い。心は娘と別れた辛さで痛い。おれが死んだらきつと娘も死ぬだろう。ヨモギとシヨウブを煎じて飲めばどんな病も治る。」それを聞いた家の人たちは急いで煎じて娘に飲ませたところ不思議なことに大蛇の卵をたくさん産んだ。

娘は男のことが恋しくて悲しみ一月後に亡くなった。そのころ、峰の池に大きな蛇の亡がらが浮いていた。

美麻村誌より

## ～ 美麻地区連合自治会 市へ陳情を実施 ～



美麻地区連合自治会では、10月10日（火）市に対し、道路改良、水路改良、河川改修、水道本管改良、防災関連、放置家屋撤去、有害鳥獣対策等の陳情活動を実施しました。

自治会長からは重点陳情箇所の必要性を詳細に説明し、市に対し早期改善を強く求めました。

市からは、現地確認等を行いながら、緊急性や優先度を考慮し計画的に改善に努めていきたいとした回答がありました。

（美麻地区連合自治会 事務局）

### 重点陳情箇所

#### ▼大塩自治会

新田南村線（道路拡幅）日影線（ガードレール設置）、タノキ立野線（土砂抜対策）、林道南村線・立野線（路面補修等）、峯・日影地籍付近（水道本管改良）など

#### ▼二重自治会

蟻坂線（からかさ松、向団地東側の線形改良、付近のオーバーレイ）、二重塩ノ入線、湯の海千見線、御堂ノ入線、大門寺下線（各所路面補修、雨水・土砂流出対策等）、菅の沢水路、湯の海水路（土砂流出対策）、御堂の脇沢川（土砂流出防止対策）など

#### ▼新行自治会

下村柏木立線（道路拡幅、路面補修、暗渠

雨水対策）、新行権現線（路面補修）、犬沢裏山線（道路拡幅、路面補修）、各路線の除雪対策など

#### ▼青具自治会

一字田川手線（路面・排水路補修、ガードポスト・ガードケーブル補修）、新行池の平線（路面補修やガードレールやU字工修繕）、米山沢ゴミステーション付近（土砂撤去）、袖沢川手集落横河川（土砂撤去）など

#### ▼千見自治会

湯の海千見線（路面補修、ガードレール設置）、塩ノ入線（路面補修、土砂撤去）、本村下線（路面補修、土砂撤去）など



## 花豆集荷のお願い

花豆生産者の皆様で、集荷にご協力をいただける方は、事務局までご連絡をお願いします。特産品普及促進に地域のお力をお貸しいた下さいますようお願い申し上げます。

※栽培をしていただいた豆はサイズごと、一般社団法人地域づくり美麻で買取りをさせていただきます。

＜お問合せ＞

美麻地域づくり会議事務局 美麻支所総務係  
Tel29-2311 / Fax 29-2333  
e-mail:miasa-soumu@city.omachi.nagano.jp

■ 編集・発行

美麻地域づくり会議

住所 大町市美麻11810-イ 電話29-2311 FAX29-2333 ・ 電子メール info@miasa.info